

【馬津城】

の大尸山郡は高麗の泰山郡○三國史記地理志三大山郡本百濟大尸山郡にして、文獻備考(郡縣沿革)に據るに今の全羅北道井邑郡泰仁面泰仁の地なり(○顯宗紀三年紀生磐宿禰跨據任那交通高麗將西王三韓築帶山城距守東道斷運糧津令軍飢困)馬津城は三國史記に獨山城とある地ならむか。○欽明紀九年馬津城之役注正月辛丑高麗率衆圍馬津城○三國史記百濟本紀聖王廿六年(即ち欽明天皇九年)春正月高句麗王平成與濊謀攻漢北獨山城獨山城は其位置詳にし難けれども、京城附近の地と見て可なるもの、如し。

【得爾辛】

蓋し馬津城に近き地ならむか。(○欽明紀九年冬十月遣三百七十人於百濟助築城於得爾辛)

【平壤】

三國史記(地理志二)に「漢陽郡本高句麗北漢山郡平壤真興王爲州置軍主景德王改名今楊州舊墟」とある平壤にて、京畿道京城府の地なり。

【百合野塞】

今の平壤に對して南平壤と稱せらる。(○欽明紀十二年百濟聖明王親率衆往伐高麗獲漢城之地又進軍討平壤)欽明紀(十四年)に「冬十年百濟王子餘昌○明王の子悉發國中兵向高麗國威德王なり威德王なり悉發國中兵向高麗國築百合野塞」とあるを、三國史記(百濟本紀威德王元年)に「冬十月高句麗大舉兵來攻熊川城敗岬而歸」とあると同一記事と見れば、○威德王明天皇十五年なれば、元年は欽明代に一年の差あり百合野は今の忠清南道公州(百濟の熊川即ち熊津)附近の地なりしなるべし。

【東聖山】

前條に同じく公州附近の地なるべきか。(○欽明紀十四年其百濟偏將打破疾圍道却高麗王於東聖山之上)

【彌氏】

附、牟豆

按ずるに三國史記(地理志三)に武靈郡茂松縣本百濟松彌知縣とある地ならむか。松彌知縣は全羅南道高敞郡茂長面附近の地なり(○欽明紀十七年遣筑紫大君率勇士

【尾資之津】

千衛淡(百濟王子)又天智紀(二年)に惠彌氏注彌氏津名見ゆる牟豆も蓋し同地なるべし。

三國史記を參照するに錦江(即ち白江)附近の地なるが如し。○百濟本紀義慈王廿年(唐將蘇定方引軍自城山濟海至國西德物島與首(百濟臣)曰白江炭岬我國之要路也宜簡勇士往守之使唐兵不得入白江又聞唐(新)羅兵已過白江炭岬遣將軍塔伯出黃山與(新)羅兵已戰塔伯死之於是合兵禦熊津口瀕江屯兵定方出左涯乘山而陣與之戰我(百濟)軍大敗定方將步騎直趨員都按ずるに百濟の屎山城一舍止節略

郡馬西良縣、今の全羅北道沃溝郡舊邑面沃溝の邊の海岸ならむか。(○齊紀六年注蘇定方率船師軍尾資之津)

【怒受利山】

三國史記に炭岬或は沉岬とある山なるべきか。○百濟本紀義慈王廿年與首(百濟要路也宜簡勇士往守之使(新)羅人未得過炭岬云々大臣等曰羅軍升炭岬由徑而不得並馬當此之時縱然りとせば慶尙・忠清兩道之境なる秋風嶺と見て可なるべし。文獻備考(山川考)に忠清北道陰

【都々支留山】

城郡陰城面に炭岬(今油岬)あれど此とは異なるが如し。(○齊明紀六年鬼室福山注或本云)北任劍利山詳ならざれど公州に近き地なるべし。久麻那利の條參照。(○齊明紀六年達麻怒利城注或本云都々支留山)

【加巴利濱】

考へ難し。(○天智紀即位前紀日本救高麗軍將等泊于百濟加巴利濱)

【疏留城】

三國史記(地理志三)に支羅城或云周留城とあると同地なるべく、此の支羅或は周留城に百濟の福信及僧道琛が王子豊を擁して據りし地○百濟本紀義慈王廿年福信將兵乃與浮屠道琛據周留城迎古王子扶餘豐營質於倭國者立之爲王にして、百濟の巢穴と稱せられ、○百濟本紀義慈二年劉仁願(唐將)曰周留城百濟巢穴群聚焉唐將等の攻伐の目標となりし地なり。而してその位置は白江○扶餘より下流の錦江を云の附近なり。○百濟本紀唐龍朔二年劉仁軌等帥水軍及糧船自熊津江(公洲)を中心とせざる錦江を云往白江以會陸軍同

趣周留城遇倭人然るに百濟の都(廿六白江口四戰皆克)亦白江の沿岸に在り。ソフリ、ソル、スル音相近く位置相似たるより見れば、之を同一地と考へて可ならむか。然りとせば周留城即ち疏留城は忠清南道扶餘郡扶餘面扶餘の地なるべし。(○天智紀元年唐新羅人伐高麗高麗乞救仍遣軍將據疏留城)

【州】

柔

三國史記(地理志四)に悦己縣一云豆陵一云尹城とある豆串城なるべし。今の忠清南道青陽郡定山面の地なり。今白各里に古城趾あるは州柔の遺跡ならむか。○北史百濟傳に見ゆる百濟五方の城と見て○天智紀元年此州柔者遠隔田畝土可ならむ(地磽角非農桑之地是拒戰之場此焉久處民可飢饉)今可遷於避城)

【古連旦徑】

避城の位置○忠清北道清州郡四州面清州より考ふるに、此は錦江の支流なる美湖川の枝

川、無心川なるべし。(○天智紀元年避城者西北帶以古連旦徑之水)

【安】

德

三國史記に據るに蓋し德安の誤ならむ。○天智紀二年二月新羅人燒百濟南畔四州并取安德等要地○新羅本紀文武王三年(即ち天智天皇二年)二月欽純天存領兵攻取百濟居列城又攻居勿城沙平城降之又攻德安城德安は三國史記に得安縣本德近支(地理志四・都督府十三縣の一)、また德般郡本百濟德近郡(地理志三)とある地にて、忠清南道恩津郡なるべし。文献備考に據るに、○文獻備考(郡縣沿革)山縣高麗石城所夫里郡珍惡山縣、即ち縣李朝石城郡今の忠清南道扶餘郡石城面なるべし。(○天智紀二年大上馳告兵事於高麗而還見亂解於石城)

【石】

城

【白村江】

支那及び朝鮮の史籍には白江と見え錦江の扶餘附近より下流を指して云ふ稱なり。(○天智紀二年大將軍將軍戰船一百七十艘陣烈於白村江)又白村(○同紀我欲自)は文意より按ず

【豆禮城】

るに白村江の略なるが如し。百濟の最南の港なり。按ずるに冬老縣の地に之を求むべきか。然りとせば全羅南道寶城郡鳥城面附近の地なるべきなり。(○天智紀二年國人相謂之曰州于今日丘墓之所豈能復往但可往於豆禮城會日本軍將等相謀事機所要)

【枕服岐城】

牟豆(即ち彌氏)に近き地なるが如ければ、(○天智紀二年遂教本在枕服岐城之(妻子等令)知去國之心辛酉發途於牟)所非分(兮又作芳)縣蓋し其地ならむか。所非兮縣は今の全羅南道長城郡森溪面の地なり。

【熊山縣】

詳にし難けれども熊津(忠清南道公州)附近に置かれし縣なるが如し。(○天智紀六年熊津都督府熊山縣令上柱國司馬法聰)

三 新 羅

(一) 新 羅

名稱 支那の史籍には古くは辰韓・秦韓(後漢書韓傳・魏志東夷傳)の稱を以て現れ、梁書に始めて新羅と見えたり。而して魏志東夷傳弁辰の條に弁辰十二國と共に列擧せられたる辰韓十二國中に斯盧國とあるは即ち斯羅にして、日本名シラギも蓋し斯盧の音より出するべし。

(二) 其の地名

【阿利那禮河】

現今の何河に當れるか詳にし難けれど新羅王の誓言(○神功紀攝政前紀新羅王重誓之曰阿利那禮河返以之逆流及河石昇爲星辰)中に現れしを見れば、按ずるに或は洛東江(當時の黄山江)にてもあらむか。

【踏鞴津】

草羅城の位置(慶尙南道梁山郡梁山面)より考ふるに蓋し洛東江口の地なるが如し。而して多々羅または多々羅原(○繼體紀廿三年)等の地名はこれより

【草羅城】

少しく上流の地點ならむか。(○神功紀 津彦語新羅次子踏 韓津拔草羅城還之) 文献備考(郡縣沿革)に良州本歌 良州とある 歌良州なるべし。即ち現今の慶尙 南道梁山郡梁山面梁山の地なり。又 雄略紀(九年の詔)に見えたる匪羅は 蓋し同地ならむ。(○神功 紀五年)

【沙比新羅】

附、沙鼻城 文献備考(郡縣沿革)に尙州古沙 伐國とある 沙伐國なるべく、今の慶尙北道尙 州郡尙州面尙州附近ならむ。今其の 東北に沙伐面あり。又天智紀(二年) に見ゆる沙鼻城(及び三國史記地理 志四に見ゆる沙卑城)も同地なるべ し。(○神功紀四十七年臣百濟等失道至 沙比新羅則新羅人捕臣等禁圍圍)

【筑足流城】

附、都久斯岐城 按ずるに文献備考(郡縣沿革)に竺山 一作とある竺山の地に非ざるか。此 地今の慶尙北道醴泉郡龍宮面龍宮の

【刀伽】

地に於て、新羅高麗の境に近く、往 時の交通路に當れり。又注に都久斯 岐城とあるは蓋し其の別稱ならむか (○雄略紀八年高麗王即發軍兵屯聚筑足流 城或本云都久斯岐城遂歌舞興樂於是新羅王 夜聞高麗軍四面歌 舞知賊盡入新羅地) 詳にし難けれど此の三城加羅に近き 地なるが如く、洛東江沿岸に存せし もの、如し。(○繼體紀廿三年遂於所經 拔刀伽古跋布那字羅三城)

【函山城】

三國史記に管山城とある地なるべ し。○欽明紀十五年(百濟王上表曰)有至臣帥軍 以六月至來以十二月九日遣攻新羅臣先 遣東方領物部某領其方軍士攻函山城以月 九日四時焚城拔之○新羅本紀眞興王十五年 (即ち欽明天皇十五年)秋七月百濟王明禮(百濟本 紀の聖王)書紀の聖明王なり與加良(來政)管山 城(管山城は文献備考(郡縣沿革)の管 城郡本古 戸山)にて、今の忠清北道沃川郡 ならむ。今その近くに環山あり。

【久陀牟羅塞】

三國史記(地理志一)に永同郡本吉同 郡とある吉同郡には非るか、然りと

【佐知村】

せば忠清北道永同郡永同面永同の地 なるべし。(○欽明紀十五年(餘昌遂 入新羅國築久陀牟羅塞) 欽明紀(十五年)に新羅の佐知村飼馬 奴苦都更名 谷智が百濟の明王を弑せしこ とを記したるを三國史記(新羅本紀 眞興王十五年)の記事に比するに「裨 將三年山郡高干都刀急擊弑百濟王」とあり。苦都即ち都刀なれば佐知村 は三年山郡に關係ありと見るを得べ し。然るに三國史記(地理志一)に三 年郡本三年山郡の領縣に清川縣本薩 買縣あり。佐知は或は此の薩買の音 を寫したるには非るか。薩買縣は今 の忠清北道清川郡の地なり。(○欽明紀 新羅謂佐知村飼馬奴苦都曰苦都賤 奴也明王名主也今使賤奴殺名主)

【岐怒江】

らむ。(○欽明紀二十二年新羅築 城於阿羅波斯山以備日本) 沙鼻(即ち沙比新羅、慶尙北道尙州) 岐怒江二城(○天智紀二年(前將軍毛野君稚 子等取新羅沙鼻岐怒江二城) とあるより推せば、慶尙北道尙州附 近の地なるが如し。

四、高麗

(一) 高句麗

名稱 支那の史籍には漢書に高句麗縣(地理志玄菟郡 その位置は今の奉天省興京附近)とあるが初見なり。 此は扶餘族の一派なる高句麗族の名に因れるものにし て、此の高句麗族が次第に南下して高句麗國を起せる なり。後漢書以下には高句麗(後漢書・魏志・晉書・宋書 等) 句驪(後漢書東夷傳)高麗(宋書帝紀・南齊書東南 夷傳)等の稱を以て記載され、三國史記には高句麗と稱 せられたり。書紀には高麗又は狗と記して何れもコマ と訓めるが、狗は支那の史書の狗(又狗・貉・狗とも記さ

【阿羅波斯山】

詳にし難けれど、當時の交通路よ り考ふるに、今日の釜山附近の地な

る)の誤られしものなるべく、貂及び穢等は高句麗内に在りし異姓族なり。而して字書を按ずるに貂は熊に似たる獸なりと云、○康熙字典貂大如驢狀頗似熊韓語にて熊はコムなり。 コマ(豹・高麗)は即ち是なるべし。

境域 漢の玄菟・樂浪二郡の地、即ち黃海道・平安道・江原道・咸鏡道の地を占めたるものゝ如し。

(二) 其の地名

○高麗は百濟と境を接し、且つ絶えず南下せる故紀中の高麗地名は本百濟の地にして後高句麗のものとなるもの多く、其等は百濟の條に載せられたれば、此には元來高句麗の地と考へらるゝ「比津留都」の一地のみを擧ぐ。

【此津留都】

○廿三年注一本云十一年大欽明紀の記事(伴狹手彦連共百濟國駐却於比津留都)に類似の事實を三國史記中に求むるに「聖王廿八年(欽明天皇十一年)春正月遣將軍達己領兵一萬攻取高句麗道薩城(百濟本紀)とあり。按ずるに道薩城は文献備考(郡縣沿革)に主夫吐郡童子勿縣一云幢山縣と

ある地と見て可なるが如し。然りとせば此は今の京畿道通津附近の地ならむ。

五、伴 跋

(一) 伴 跋

名稱 此の國名繼體紀(七年・八年)に見えしのみにて他に見えず。(○七年紀百濟奏云伴跋國略奪臣國已汶之地)

境域 其の境域も詳ならねど、紀中に現れし地名より推定するに、全羅南道求禮郡一帯の地を本據とせしものゝ如し。

(二) 其の地名

【己 汶】

○汶(汶)三國史記(地理志四)に支潯州己汶縣本今勿あり。此の地なるべけれど其の位置詳ならず。按ずるに帶沙(慶尙南道河東郡河東・任那の部参照)に近き地なるべきを以て、(○繼體紀七年以己汶帶沙賜百濟)

【子 吞】

國)全羅南道求禮郡良文面の地と見て可ならむか。

【子 吞】

此も帶沙に近き地なるべければ、(○繼體紀八年伴跋築城於子吞帶沙)蓋し今の慶尙南道河東郡古田面の地ならむか。又繼體紀廿一年に見えし己吞(任那の部参照)とは異なるべし。

【滿 奚】

【滿 奚】

此の地も子吞・帶沙に近しと推せらるれば、(○繼體紀八年伴跋築城於子吞帶沙而連滿奚置烽候邸閣以備日本)蟾津江(即ち帶沙江・任那の部参照)口の地に之を求むべきものゝ如し。

【爾 比】

【爾 比】

按ずるに此の兩地も蟾津江に近き地ならむか。(○繼體紀八年復築城於爾列比麻須比)

【麻 且 奚】

【麻 且 奚】

此の兩地は蓋し晉州に近き地なるべきか。そは繼體紀(八年)の文に築城於爾列比麻須比而緝麻且奚推封

聚士卒兵器以逼新羅とあるより考ふるに、南江(洛東江支流)の支流なる徳川江は晉州附近にて南江に合流すれば、新羅に備ふる爲には地形上此の徳川江と蟾津江の間の地に築城すべきに非ずや。○慶尙道全羅道の境の南方には智異山ありて交通し故に晉州附近の地と考ふるなり。

六、耽 羅

名稱 支那の史籍には舛牟羅(隋書百濟傳)耽牟羅(北史百濟傳)とあり。三國史記(百濟本紀)には耽羅と見ゆ。(○繼體紀二年耽羅人初通百濟國)

七、浪 水

浪水に三説あり。(一)は史記朝鮮傳等に見えし浪水にして、此は今の鴨綠江なりとせらる。(二)は唐書・高麗傳等に見えし其君居平壤城亦謂長安城漢樂浪郡也浪水にして、今日の大同江なり。即ち今の平壤なり(三)は三國史記に見えし○百濟本紀始祖溫祚王沸流謂弟溫祚曰吾等徒在此鬱々渡浪帶二水至彌鄒忽同十三年遂畫定疆浪水又は浪河にして、此は今日の黄海道の禮成江、或は京畿道の臨津江と考へられたり。而して紀中(天智紀)に見えし浪水は高麗城下(即ち平壤)に近きものなるべければ第二に擧げたる大同江と見るべきもの、如し。(○天智紀即位前紀七月蘇子契必加力等水陸二路至于高麗城下十二月高麗言惟十二月於高麗國寒極浪凍故唐軍雲車衝棚鼓鉦吼然高麗士卒膽勇雄壯故更取唐二壘唯存二塞亦○尙注意すべきは浪を單備夜取之計にエミ訓めることなり。

昭和四年三月二十八日印刷
昭和四年四月 二 日發行

正 價 金 四 圓



六 國 史
卷 貳
(下 卷 紀 書 本 日)

編 纂 者 佐 伯 有 義
東京府豊多摩郡大久保町西大久保三七三番地

發 行 者 鎌 田 敬 四 郎
大阪市北區中之島三丁目三番地株式會社朝日新聞社

印 刷 人 高 橋 郡 二 郎
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 株式會社 秀 英 舍
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

發 行 所

大阪市北區中之島三丁目三番地
株式會社 朝 日 新 聞 社



